日 本 国 際 教 育 学 会

JIES NEWSLETTER

February 2023 No. 34

ニューズレター ダイジェスト

○会長挨拶

○第 33 回研究大会報告

○第 3 回学会賞・奨励賞

○第 33 回総会報告

○2021 年度国際研究交流会報告

○『国際教育』第 29 号原稿募集

○第 34 回研究大会のご案内

○第 4 回学会賞・奨励賞候補作の募集

○2022 年度国際研究交流会のご案内

○2022 年度日本国際教育学会役員一覧

○事務局からのお知らせ

第 33 回研究大会　課題研究Ⅱ

「教師教育における多様性の理念と実践

－国際教育研究の視座から－」

会長挨拶

学会の未来に向けて

第 33-34 期会長
佐藤千津（国際基督教大学）

昨夏の役員改選により第 33-34 期会長を拝命いたしました。身に余る光栄に存じますが、４期目となり責任の重さを改めて感じております。本学会は 1990 年 8 月 8 日に創立され、今年で 33 年目となります。先達諸氏が築かれた伝統を継承するとともに、学会の更なる発展のために引き続き全力で取り組む所存です。会員の皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

昨年の Newsletter でも触れましたが、学会創立当時、東京大学教育学部の教授であった松崎巖初代会長は、教育をめぐる様々な課題について考える際にはその基礎に「人類愛に根ざした哲学」がなければならないと学会設立趣意書で述べられました。さらに、教育研究においては自己と他者の双方の幸福に配慮し、世界中の人々の将来について考える視野の広さが大切だと説いておられます。あれから 30 年余りが過ぎましたが、今もなお世界の平和と安定を脅かす動きは絶えず、加えて未知のウィルスの流行など、心落ち着かない日々が続いております。今まさに人類が直面する数多の難問に向き合うために「人類愛に根ざした哲学」をもとに研究を進め、手を携えて明るい未来を思い描くべき時ではないでしょうか。学会がそのための場であり続けることを願います。

こうした思いを共有しつつ、第 33-34 期の学会運営体制がスタートしました。理事の定数は会員数に基づいて決められますが、今期は会員数の増加により理事定数が 19 名と過去最多となりました。外国籍の理事も増え、初めて海外在住の理事が副会長に就任しております。本学会の理事会ではコロナ禍以前からオンライン会議を併用しておりましたが、それが一般化したことで各種委員会にも国内外の会員に参加していただけるようになりました。このように以前にも増して国際性と多様性、そして活力に満ちた陣容を整えることができ、それぞれ活動を始めております。

まず、３月には Jeffry Gayman 理事を中心に国際研究交流会をオンラインで開催いたします。西オーストラリア州教育省の Ms. Patricia Konigsberg を講師に迎え、“Two-way Learning” による教師教育について考えます。私たちが互いの違いについて学び、違いから生じる様々な問題を乗り越え、リスペクトフルな人間関係を築くことは容易いようで難しく、些些たるようで重要な課題です。こうした大きなテーマを日常生活の中でいかに具体化するかについてオーストラリアの取り組みを手がかりに考えてみます。

次に、秋には赤尾勝己理事を大会実行委員長とし、第 34 回研究大会を関西大学で開催いたします。関西大学の沿革によれば、フランスの法学者であるボアソナードの教えを受けた司法官や自由民権運動家によって 1886 年に設立された関西法律学校が大学の前身です。今や四つのキャンパスに 13 学部を設置する大規模総合大学ですが、今大会は緑豊かで広大な千里山キャンパスで開催されます。大阪での大会開催は初めてのことです。今年こそは爽やかな秋に大阪で再会し、実りのある研究活動ができれば幸いです。

これからの一年が会員の皆様にとって幸多き平和な日々となり、学会にとっては 40 周年に向けた飛躍の年となることを願っております。

第 33 回研究大会報告

第 33 回研究大会を終えて

第 33 回研究大会実行委員長
北野秋男（日本大学）

日本国際教育学会第 33 回研究大会は、2022 年 10 月 29 日（土）と 10 月 30 日（日）の両日に、「全面オンライン開催」により事故やトラブルもなく、無事に終了できましたことをご報告いたします。第 33 回研究大会を日本大学文理学部で開催することをお引き受けする時は、研究大会として 2 年ぶりに「対面」による開催を行う予定で様々な準備を進めておりました。しかしながら、コロナ感染がかつてなく全国に拡大している現状を鑑み、「対面」での開催に伴うリスクやトラブルなどの可能性も増していると考え、「全面オンライン」で開催することと致しました。「対面」での開催を心待ちにされていた会員の皆様には大変申し訳ありませんでしたが、大会を安全・安心して開催することを優先したことをご理解いただければと思います。

さて、大会の開催を「対面」から「オンライン」に変更したにもかかわらず、研究大会は盛会であったと思います。各プログラムの参加者数は、自由研究発表においては第 1 分科会：21 名、第 2 分科会：19 名、第 3 分科会：19 名、第 4 分科会：16 名、第 5 分科会：17 名、第 6 分科会：30 名、課題研究Ⅰ：36 名、課題研究Ⅱ：41 名、公開シンポジウム：45 名、大会校特別企画：30 名でした。この中には、非会員の大会参加申込者数の 37 名も含まれています。自由研究報告には 22 件の申し込みがあり、いずれの会場も質の高い報告がなされ、活発な質疑応答が行われました。直前のキャンセルもありませんでした。司会をご担当して頂いた会員の皆様には感謝申し上げます。

課題研究Ⅰでは、「『日本語教育推進法』（2019 年施行）における言語学習支援の評価と課題－オーストラリア、フィンランド、日本の取り組みをふまえて－」と題して、国内外の外国人に対する言語学習支援の先進事例が検討されました。課題研究Ⅱでは、「教師教育における多様性の理念と実践－国際教育研究の視座から－」と題して、イギリス、オーストラリア、台湾の教師教育の課題について国際教育の観点から検討がなされました。開催校企画シンポジウムは「危機の時代におけるシティズンシップ教育」と題して、複雑な危機の時代におけるシティズンシップ教育の課題と可能性について検討を行いました。開催校特別企画は、「留学生と共に考えるコロナ禍以後の教育の課題と可能性」と題して、留学生を中心に教育・研究、生活などの諸問題に関する活発な意見交換を行いました。いずれの会場も、有意義で活発な討論が行われましたことをご報告いたします。

研究大会をお引き受けする際には、本学における学会員は私と日暮先生だけでしたが、すぐさま間篠事務局長をはじめ、劉助手にも入会して頂き、2022 年の年明けには大会実行委員会の体制も整い、着実に準備を進めることができました。大会実行委員会の皆様の献身的な協力に感謝申し上げます。また、佐藤会長をはじめ学会事務局の皆様のご助言・ご支援、ならびに第 33 回研究大会にご参加いただいた会員の皆様にもこの場を借りて、御礼申し上げます。

第 3 回学会賞・奨励賞

日本国際教育学会第 3 回学会賞・奨励賞の選考結果について

学会賞・奨励賞選考委員会委員長
赤尾勝己（関西大学）

１．選考経過について

・第 1 回選考委員会（2020 年 11 月 15 日、Zoom 会議）：今期の選考委員会の構成及び選考手続き・実施スケジュールの確認、学会賞及び奨励賞の選考基準・審査項目等の検討を行った。

・募集期間（2021 年 2 月 1 日～8 月 31 日必着）：応募（自薦）1 件（8 月 18 日付、19 日選考委員会事務局着）を受領した。

・第 2 回選考委員会（2021 年 9 月 7 日～9 日、メール会議）：応募票受諾の可否、審査結果報告書の書式及び今後のスケジュール等の検討・決定、理事会・総会報告の検討・決定した。

・審査期間（2021 年 9 月 13 日～11 月 30 日※審査結果報告書の提出期限）：9 月 10 日、対象著作を選考委員 3 名にレターパックプラスで送付した。

・第 3 回選考委員会（2021 年 12 月 12 日、Zoom 会議）：各選考委員の審査主旨・要点説明及び質疑応答を踏まえた対象著作の総合評価と学会賞（奨励賞）授与可否の審議・決定を行った。

２．選考結果について

・上記の第 3 回選考委員会（2021 年 12 月 12 日）における審議の結果、下記対象著作に、第 3 回日本国際教育学会学会賞「奨励賞」を授与することが全員一致で決議された。

対象著作：呉　世蓮『日本と韓国における多文化教育の比較研究―学校教育、社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して』学文社、2021 年。

・授賞理由

本書は、「多文化教育」について、日韓の共通点と相違点を比較研究の立場から明らかにしたもので、「国際教育研究」としてひとつの貴重な事例研究となりうるものであり、国際教育研究の進展に貢献するものと思われる。多文化教育の日韓比較という、ほとんど先行研究のない領域での萌芽的研究として一定の水準を提示できている。

本書はもともと博士論文として書かれたものであり、韓国から日本に留学して限られた年数ではあるが、フィールドワークを重ねて書いた労力は評価に値する。「多文化教育」について、学校教育だけではなく、政策、社会教育、地域社会といった多様で広い視点からの分析を構造的に組み立て、日本と韓国の「多文化教育」について重要な知見を我々に提供してくれていることは確かである。我が国の「多文化教育政策」に何が欠けているのか、韓国との比較で明快に明らかにされており、日本の多文化教育政策に貴重な提言がなされている。

以上の点から、本書は本学会学会賞「奨励賞」を受けるにふさわしいと判断する。

第３回 日本国際教育学会奨励賞を受賞して

呉世蓮（関東学院大学）

この度、第 ３ 回日本国際教育学会学会賞「奨励賞」の受賞対象となりました拙著は、２０１６年６ 月に学位を取得した博士論文を加筆修正し、公益財団法人ヒロセ財団の研究助成を受け刊行したものです。執筆にあたりご指導いただいた多くの先生方や学会会員の先生方のご支援、そして家族と仲間の存在とご指導、ご支援があってこそ、このような素晴らしい賞を受賞できたと思います。心より感謝申し上げます。

特に、博士論文をご指導頂きました指導教授で、現在首都大学東京名誉教授の岩﨑正吾先生、副査の早稲田大学の前田耕司先生、早稲田大学名誉教授の湯川次義先生、東京大学の李正連先生にお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。そして、刊行にあたっては学文社の二村さんと出版助成ヒロセ財団の方々に大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

また、このような権威ある賞を与えて頂きました、日本国際教育学会に心より感謝致します。日本国際教育学会は、２００９年修士２年生の時に入会し、学会発表や研究論文を書ける機会を頂き、会員の先生方や先輩方々からもご指導を頂きながら、たくさん学び、たくさん議論することが出来ました。それら多くの経験があったからこそ、日本と韓国における多文化教育の比較研究を考察した拙著を書き上げることができたと思います。

最後に、学会賞選考委員会におけるご講評とともにご指摘頂きました内容を今後の自分の研究に活かし、日本国際教育学会や日本社会、さらに日韓関係にお役に立てるように努めてまいりたいと思います。

新たな出発としてまた初心に戻り、精進してまいります。皆様どうか今後とも、よろしくご指導ご鞭撻をお願い致します。誠にありがとうございました。

第 33 回総会報告

開催日時：2022 年 10 月 29 日（土）17 時～18 時
開催方法：Zoom によるオンライン開催

I. 報告事項

1. 第33回研究大会の開催報告
2. 2021年度（2021年8月1日～2022年7月31日）会務報告
   (1) 会員数の現況【資料 1】
   (2) 2021年度活動報告【資料 1】
   (3) 2021年度決算報告【資料 2】
3. 2021年度会計監査報告【資料 2】
4. 各種委員会等報告
   (1) 紀要編集委員会報告【資料 3】
   (2) 学会賞選考委員会報告【資料 4】
   (3) 研究担当報告
   (4) 国際交流担当報告【資料 5】
5. 第33-34期役員選挙結果【資料 6】
6. 第33-34期理事会体制【資料 7】
   (1) 新役員及び会務分掌
   (2) 事務局組織
7. 第33-34期各種委員会組織【資料 7】
8. その他

Ⅱ．審議事項

1. 会計監査の選任について
2. 2022年度（2022年8月1日～2023年7月31日）事業計画
   (1) 2022年度活動計画（案）【資料 8】
   (2) 2022年度予算（案）【資料 9】
3. 第34回研究大会の開催日程・会場について【資料 10】
4. 学会規則（第13条「学会所在地及び取扱い金融機関」）の改定について【資料 11】
5. その他

【配付資料】
資料1. 2021年度（2021年8月1日～2022年7月31日）会務報告
資料2. 2021年度会計報告書（期間：2021年8月1日～2022年7月31日）
資料3. 紀要編集委員会報告
資料4. 学会賞選考委員会報告
資料5. 国際研究交流会実施報告
資料6. 第33-34期役員選挙結果について
資料7. 第33-34期理事会・各種委員会（案）
資料8. 2022年度（2022年8月1日～2023年7月31日）活動計画（案）
資料9. 2022年度（第33期）予算案（会計年度：2022年8月1日～2023年7月31日）
資料10. 第34回大会開催について
資料11. 「日本国際教育学会規則」改定（案）

2021 年度国際研究交流会報告

第 31-32 期国際交流担当理事
下田誠（東京学芸大学）

2021 年度、国際交流担当は 2022 年 3 月 21 日（月・祝）、13 時 30 分から 15 時の日程で「国際教育研究のスタートアップ—若手研究者のアカデミックキャリアパスを考える—」と題する国際研究交流会をオンライン形式（Zoom）により開催した。

本年度も前年度に引き続き、コロナ禍で滞りがちな国際交流を促進するため、海外で活躍する若手研究者に話題提供を依頼し、アカデミックキャリアパスを考える機会とした。

プログラムは、海外からの発表 2 件と国内からのもの 1 件、情報交換である。海外からの発表は斎藤翼氏「海外の大学院で学ぶとは—加・ブリティッシュコロンビア州での経験から」（後述の参加記参照）、伊藤太陽氏（オレゴン大学教育学部博士課程）「アカデミックキャリアの形成に向けて—米・アラスカ州とオレゴン州での経験から」の 2 件であり、いずれも海外での学びやキャリアパスを考える際に参考となる有意義な内容であった。その後、海外経験を活かした日本国内の事例として、「テニュアポストを獲得するまで」と題する発表を担当の下田より行った。

参加者は 16 名と多くの会員にお集まりいただき、企画の方向性に手ごたえを感じている。

国際研究交流会に参加して

斎藤　翼（ブリティッシュコロンビア大学大学院）

交流会では、報告者自身の日本及び加・ブリティッシュコロンビア州の大学院生としての経験をもとに、日本とカナダの大学院の課程や授業の比較を行い、両者の特徴や課題について報告を行った。カナダの大学院では学生が個々に主体となる環境が多く、学生には論文執筆も含め能動的な活動が求められる。そのため、同じ指導教授を持つ学生同士であっても交流の機会は多くない。一方で、日本の大学院はゼミ等の定期的な集団的活動といった、学生同士の横のつながりを作りやすい環境が特徴的である。学生にとっては研究者としてのロールモデルを見つけやすく、研究の進捗が滞っても周囲から助言が得られやすい一面を持つ。また、大学院生の実務経験の有無や多様性についても日本とカナダで差が見られた。報告の最後には、留学生が現地ではマイノリティとなることを認識しながら学んでいく視点の重要さについて説明を行った。コロナ禍のため学会活動が難しくなり、他国の状況を捉えにくくなった中で、本交流会を通じて日本やアメリカの状況を伺うことができたのは報告者自身に対しても有意義な時間となった。

『国際教育』第 29 号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第 29 号(2023)の発刊に際し、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2023 年 3 月 1 日必着）。

原稿の投稿に関しましては、本学会公式ウェブサイト（https://jiesofficial.com/）の「学会紀要」のページで最新情報をご確認ください。会員の皆さまの積極的な応募をお待ちしております。

CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 29

Submissions to the 29th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2023. Authors making submissions in English should review the Additional Guidelines for English Manuscripts. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (https://jiesofficial.com/) before submission.

第 34 回研究大会のご案内

第 34 回研究大会担当理事の赤尾勝己です。日本国際教育学会第 34 回研究大会は、来たる 2023 年 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）の 2 日間、関西大学千里山キャンパスで開催される運びとなりました。

関西大学千里山キャンパスは、阪急電車千里線「関大前駅」で下車して、徒歩 5 分ほどで着きます。同駅北口で降りますと、すぐにエスカレーターにつながる道が整備されています。土曜日はエスカレーターが稼働していますが、日曜日は稼働していないことがありますのでどうぞご注意ください。

第 34 回研究大会は、大会実行委員長：赤尾勝己（関西大学）、大会事務局長：田中潤一（関西大学）、同事務局次長：木田竜太郎（愛知学泉大学）、大会事務局幹事：大谷杏（福知山公立大学）、今井貴代子（大阪大学）（敬称略）の 5 名を中心に運営されます。

当初は 10 月に開催することを考えていましたが、学内で推薦入試、大学院入試、各種入試（AO 入試を含む）が日曜日を使って実施されるため、今回は 9 月と 10 月をまたいでの開催となりました。それでは仲秋の 2 日間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第４回学会賞・奨励賞候補作の募集

＜学会賞の趣旨＞

日本国際教育学会では、国際教育学のさらなる発展のため、日本国際教育学会学会賞・日本国際教育学会奨励賞を制定し、優れた研究業績の表彰を行います。学会賞は国際教育学の顕著な研究業績に、奨励賞は学会賞に準ずる賞として、国際教育学の発展に寄与することが期待される萌芽的な研究業績に授与されます。賞の授与は、会員１名につき、著書と論文のそれぞれ１回を限度とします。会員の皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。

＜選考と表彰＞

賞の選考は「学会賞・奨励賞の選考に関する規則」に基づき、選考委員会によって選考されます。著書と論文の受賞点数は合わせて２点ないし３点程度です。受賞作品は、2024 年 9 月に開催予定の日本国際教育学会第 35 回大会総会で表彰します。

＜募集要項＞

1 対象作品 ： 2021 年 9 月 1 日から 2023 年 8 月 31 日までに刊行された日本国際教育学会紀要『国際教育』掲載論文及び国内外で刊行された本学会員の単著書

2 応募要領 ： 応募は本学会会員の自薦・他薦によるものとする。自薦・他薦ともに「日本国際教育学会　学会賞応募票」に必要事項を記入し、当該著書３部または論文３部とともに提出すること。会員が自薦･他薦できる研究業績は、会員１名につき合わせて１点とする。

3 締切: 2023 年　8 月 31 日（木）（必着）

4 結果の通知：受賞者には 2024 年 5 月までに結果を通知します。

5 問い合わせ先／送付先 ：

【日本国際教育学会　学会賞選考委員会　事務局】
〒464-8601　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
服部美奈　気付　s47544a■cc.nagoya-u.ac.jp
■を@に置き換えてください

なお、詳細につきましては、本学会ホームページをご覧ください。

2022 年度国際研究交流会のご案内

Two-way learning in Western Australia: successes, challenges, and opportunities
(tentative title)

日本では、2022 年に教員免許更新制が「発展的解消」とされ、「新たな教師の学びの姿」が模索されています。教師の専門的成長を支える教育や研修の在り方は世界各国・地域に共通する課題ですが、この分野で先進的事例を有するオーストラリアの取り組みに着目し、西オーストラリア州教育省の Principal Consultant として教員研修の開発・実施に取り組んでいる Ms. Patricia Konigsberg を迎え、公開研究交流会を開催します。オーストラリアでは全州共通の Australian Professional Standards for Teachers に基づき、各州の地域特性・課題に応じた教員研修が行われています。先住民族出身の教師や生徒が多い西オーストラリア州では、異なるバックグラウンドをもつ二者（教師と先住民族出身の生徒など）の間の双方向的な Two-way Learning の教員研修プログラムが実施されています。先住民族について学ぶという一方向的学習ではなく、双方にとって新たな学びと理解が得られ、それによって両者のリスペクトフルで持続的な関係構築を促すようなプログラムです。その理念と実践は、多様性への対応が求められる今日の日本の国際教育や教師教育に示唆を与えるものだと考えます。会員以外の方もお誘いあわせの上、どうぞご参加ください。

開催日時：２０２３年３月１８日（土）　１４時～１５時３０分（JST）
開催方法：オンライン　ライブ配信（Zoom 使用）
申込方法：本学会会員は申込不要です。会員以外の方は３月１５日（水）までに以下のフォームから参加申込をお願いします。申込者に Zoom の情報を開催前日までにご連絡します。

https://docs.google.com/forms/d/1rhFCwLnefMsisITzScWcO2VlSjc40qwbDRFULgFdiI8/edit?ts=63a03237

言語：英語（通訳なし）
参加費：無料
問い合わせ先:国際交流担当　ジェフリー・ゲーマン（ jeffry.gayman■imc.hokudai.ac.jp ）
■を@に置き換えてください

2022 年度　日本国際教育学会役員一覧

昨年は役員選挙が実施され、第 33～34 期の役員が下表のとおりに決まりました。

理事会

役職	氏名	所属	担当
会長	佐藤　千津	国際基督教大学	―
副会長	Zane　Diamond	Monash University	―
理事	赤尾　勝己	関西大学	研究大会（第 34 回）
同	岩﨑　正吾	首都大学東京（名誉教授）	規程
同	呉　世蓮	関東学院大学	事務局（総務）
同	太田　浩	一橋大学	組織
同	大谷　杏	福知山公立大学	Newsletter
同	小川　佳万	広島大学	研究大会（第 35 回）
同	栗栖　淳	国士舘大学	研究
同	Jeffry　Gayman	北海道大学	国際交流
同	澤田　敬人	静岡県立大学	紀要
同	下田　誠	東京学芸大学	規程
同	玉井　康之	北海道教育大学	組織
同	新関 ヴァッド 郁代	産業能率大学	事務局（広報）
同	服部　美奈	名古屋大学	学会賞
同	平山　雄大	お茶の水女子大学	事務局（事務局長）
同	前田　耕司	早稲田大学	リエゾン
同	吉田　尚史	福岡女学院大学	研究
同	楊　武勲	国立暨南国際大学	国際交流

事務局

役職	氏名	所属
事務局長	平山　雄大	お茶の水女子大学

会計監査

役職	氏名	所属
会計監査	栗田　梨津子	神奈川大学
同	若園　雄志郎	宇都宮大学

各種委員会

役職	氏名	所属
紀要編集委員会 委員長	澤田　敬人	静岡県立大学
同委員	阿部　恵	函館工業高等専門学校
同	石井　由理	山口大学
同	新見　有紀子	東北大学
同	田中　達也	釧路公立大学
同	寺野　摩弓	国際協力機構（エジプト高等教育省）

同	三輪　千明	広島大学
同	渡部　孝子	群馬大学
同幹事	我妻　鉄也	千葉大学
学会賞選考委員会 委員長	服部　美奈	名古屋大学
同委員 （紀要編集委員兼任）	渡部　孝子	群馬大学
同	岩﨑　正吾	首都大学東京（名誉教授）
同	太田　浩	一橋大学
同	小川　佳万	広島大学
同幹事	羽谷　沙織	立命館大学

事務局からのお知らせ

1. 連絡先・ご所属の変更をお知らせください。

ご所属の変更等にともない会員資格や連絡先に変更があるかたがいらっしゃいましたら、事務局（jies_jimukyoku■jies.gr.jp）までメールにてご連絡ください。

■を@に置き換えてください

2. 会費納入のお願いについて

2022 年度（2022 年 8 月 1 日～2023 年 7 月 31 日）会費を未納のかたは、ご納入くださるようお願い申し上げます。不明点等がございましたら事務局までお問い合わせください。

【納入先】

郵便振替口座名義：日本国際教育学会

口座番号：00130-7-124562

ゆうちょ銀行　〇一九 店（ゼロイチキユウ店）当座　0124562

3. 新入会員紹介

会員限定公開コンテンツにつき、非掲載とします。

日本国際教育学会　Newsletter No. 34

編集発行　日本国際教育学会　代表　佐藤千津

発行所　〒112-8610　東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学グローバル協力センター
平山雄大研究室気付
学会事務局メールアドレス：jies_jimukyoku@jies.gr.jp
学会ホームページ：http://www.jies.gr.jp

発行年月日　2023 年 2 月 20 日